Kansai Rosai Hospital

関西ろうさい病院 広報誌

さぷりめんと

2022-Mar

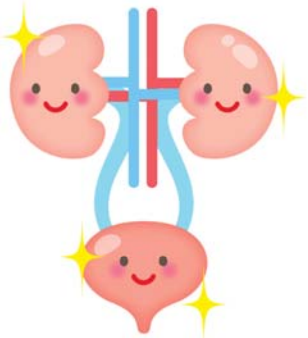
No.60

あなたの腎臓、大丈夫ですか？

腎臓内科　和泉　雅章

はじめに

この文章を読んでおられるみなさん、タイトルの質問に「大丈夫！」と答えられますか？「いやぁ、大丈夫かどうかよくわからない。」という方が多いのではないでしょうか。



腎臓は腰の奥の両側に1個ずつある、握りこぶし大の内臓です。小さな内臓ですが、1日に100リットル以上の血液が計200万個の糸球体という血管のフィルターで濾過されて尿となり、その後からだの状態に応じて量や成分が調整されています。こうして腎臓は人間が生きていくうえで生じる老廃物を尿に排泄するだけでなく、血液の量や成分を一定に保って生命を維持している働き者なのです。しかし腎臓病はかなり進行しないと明確な自覚症状が現れません。

腎臓病とその発見方法について

腎臓病を発見する方法は二つあり、一つは検尿、もう一つは血液検査です。検尿では尿蛋白や血尿に注意し、血液検査ではクレアチニン（Cr）という検査値が重要です。近年血液のクレアチニンから腎臓の血液浄化能力（腎機能）を推定計算する式が考案され、手軽に腎機能を知ることができるようになりました。検尿の異常や腎機能低下が続く状態を「慢性腎臓病」と呼びます。

腎臓病というと、「透析」を連想される方が多いと思います。日本では現在約35万人の方が透析を受けていますが、その予備軍である「慢性腎臓病」患者は約1300万人もいると推定されており、「隠れ国民病」と呼ばれています。慢性腎臓病は進行すると透析が必要になるだけでなく、心臓病や脳卒中を増やして生命を脅かす病気です。最近では糖尿病・高血圧などの生活習慣病を原因とする慢性腎臓病が増えています。

慢性腎臓病に対する早めの対策をしませんか？

この文章を読んでいるあなたも、実は慢性腎臓病かもしれません。検尿や血液検査で自分の腎臓の状態を知り、もし慢性腎臓病なら原因を調べて早めに対策を立てることが必要です。かかりつけの医師に一度相談してみてはいかがでしょうか？

関西ろうさい病院の理念　●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
・私たちは、高度急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
かんろっこ

関西ろうさい病院 広報誌

さぷりめんと

2022-Mar
No.60

爪白癬（爪水虫）

皮膚科　福山　國太郎

爪白癬について

爪白癬は白癬菌というカビの一種が爪に感染する病気です。足白癬を長期に患うことで起こることが多いと言われています。日本人では5人に1人が足白癬に、10人に1人が爪白癬にかかっていて、大変に多い病気です。

爪白癬はどこでうつるか？

白癬菌はカビの一種ではありますが、不潔にしているからうつるわけではありません。足白癬患者が環境中に菌をばらまいて、それが健康な人の足にくっつくことでうつります。銭湯やジムなど素足になる環境では白癬菌がほぼ100％検出されますが、多くは家庭内でうつるとされています。また治療している患者からはうつらないこともわかっています。家庭内に治療していない足白癬の患者がいる場合には要注意です。

爪白癬になると何が困るか？

爪白癬は爪が変色したり分厚くなったり見かけが悪くなるだけでなく痛みや歩きづらさにつながることがあります。また糖尿病や足の血流が悪い方では爪白癬によって皮膚が傷ついて感染症を起こすこともあります。また、爪白癬が白癬菌の貯蔵庫になるため足白癬を治しても爪白癬から白癬菌がでてきて足白癬を繰り返します。

爪白癬の治療は根気が必要です！

爪白癬は足白癬に比べて、治療が難しく長期の治療が必要です。外用薬と内服薬がありますが、外用薬では1年間塗り続けて、完全に治る確率は約10数％です。さらに塗り続ければ徐々に治る確率は上がるとされています。内服薬では薬によりますが、3-6ヶ月程度の内服が必要です。最近では、3ヶ月の内服で1年後に治る確率が約60％と外用薬より高い内服薬も出てきました。定期的な採血は必要ですが、副作用や相互作用も少ないので、内服できる方は内服治療をおすすめします。

まずはお近くの医療機関へご相談ください！

爪が変色するなど症状がある方、詳しい治療方法を知りたい方、ご不明な点がある方は、お近くの皮膚科専門医までご相談ください。

独立行政法人
労働者健康安全機構
関西ろうさい病院
尼崎市稲葉荘3－1－69
TEL 06－6416－1221(代)
発行人　林　紀夫
編集人　足立　崇